

消費者教育 実践事例集

日常に潜む事故から子どもを守る —医療者による出前講座—

福水 希梨 Fukumizu Kiri 熊本赤十字病院救急科 医師
救急科専門医取得後、東京都立小児総合医療センター勤務。
九州の小児救急医療に携わりたいと思い、2024年4月から現職

くまSKIP結成のきっかけ

転落、窒息、誤飲、溺水、熱傷など、身近なところで起こる不慮の事故や怪我で救急搬送されてくる子どもが後を絶ちません。これらの事故や怪我は予防できるものも数多くありますが、それを知る機会が少ない現状があります。このような悲しい事故が繰り返されないように、熊本赤十字病院の救急医と小児科医の有志が集まり「くまSKIP (KUMAmoto-Save Kids from Injuries-Project)」を2021年に結成し、子どもの傷害予防に関する啓発活動を行っています。

くまSKIPの出前講座について

くまSKIPは、熊本県内の施設に出張して、子どもの傷害予防をテーマにした出前講座を行っています。保育園や幼稚園、学校、市役所、役場など、子どもと関わるすべての人々に向けて講演を行っており、希望に応じてオンライン開催もしています。くまSKIPではこれまでに24回の出前講座を実施しており(2024年9月時点)、年々依頼も増加しています(図)。受講者は500名を超え、保護者、保育士、養護教諭をはじめとした教職員だけではなく、小学生や高校生など子どもたち自身に参加してもらったこともあります。

ボタン電池を使った実験も

出前講座では、主に子どもたちの身のまわりで起こる傷害(転落、窒息、誤飲、溺水、熱傷など)とその予防について講義をしています。また、不慮の事故で医療機関を受診した事例も交えてお

図 出前講座の件数

※筆者作成

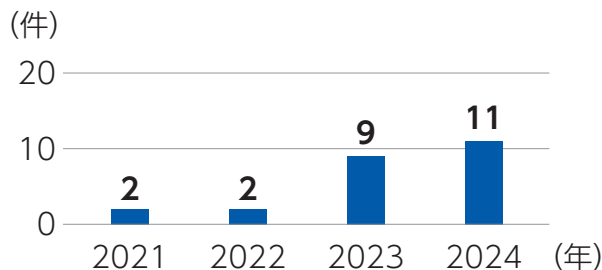
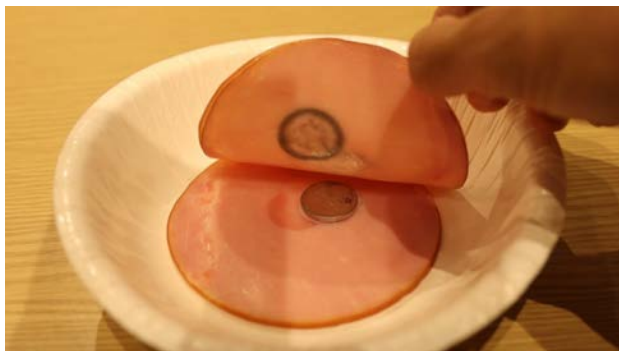


写真1 ボタン電池により焼け焦げるハム



※写真はすべて筆者提供

話ししています。ボタン電池誤飲の例では、ハムにボタン電池を挟み、ハムが焼け焦げていくようすを実際に見てもらっています(写真1)。保育園や幼稚園など、保育・教育現場に出向いて講座を行うときは、実際に施設内に潜む危険な場所や危険なものを受講者の皆さんと一緒に探し、傷害予防策について一緒に考えています。

受講者から寄せられた感想

受講者の皆さんからはさまざまな感想をいただいています。特に、「知らないことが多く、子どもの傷害予防について勉強になった」「学んだことを周囲にも広めていきたい」という感想をいただくことが多いです。以下、今までいただいた

感想の一部を紹介します。

- 現場で実際に診療している先生からの話を聴いて貴重でありがたかったです
- 傷害予防について、学校のこどもたちだけではなく我が子のことも考えながら話を聴いていました
- 周囲の教職員や保護者へ今回学んだことを広めていき、こどもたちの傷害予防に努めていきたいと思えます

今後の展望

くまSKIPは、今後も①出前講座を含む啓発活動と②医療機関ネットワーク事業に力を入れていきたいと考えています。

①啓発活動

現在は、保育園や学校等からの依頼に応じて出前講座を行っていますが、より多くの人々にこどもの傷害予防について知っていただきたい、こどもたちに関わる人々が傷害予防について学べる機会を増やしたいと考えています。その方策の1つとしては、行政と協働して傷害予防に努めることです。具体的には、こどもの健診時にこどもの年齢に応じた傷害予防についてパンフレットを配ったり、講演をしたりと啓発活動ができれば、より多くの人々に傷害予防について知っていただくことができるのではと考えています。また、保護者や保育士、教職員だけではなく、こどもたち自身にも身を守る方法を教えていく機会を増やしたいと考えています。

このように啓発活動を行っていくなかで、啓発活動が傷害予防につながっていることをデータとしてどのように出していくのかは今後の課題と考えています。

②医療機関ネットワーク事業

こどもたちに関わる製品に関して、傷害が起らない、もしくは傷害が起きても重篤事案につながらない製品やシステム開発が必要と考えています。

当院は、消費者庁と国民生活センターの共同事業で、消費生活において生命または身体に被害が生じた事故情報の収集に協力する「医療機関ネットワーク事業」に参画しています。今後も引き続き事故症例を発信し、傷害予防に努めていきたいと考えています。

写真2 出前講座の様子

